

## 巻頭言

# 心理学部設置の完成年度を迎えて

跡見学園女子大学心理学部臨床心理学科  
学部長 野島 一彦

2018年度より文学部臨床心理学科は心理学部臨床心理学科として独立しました(学生定員120名, 専任教員10名)。関東圏内の女子大学で心理学部設置というのは本学が最初ということになりました。それから4年後の2021年度には心理学部設置の完成年度を迎えました。

18歳人口が年々減少し、受験状況が厳しくなっていくなかで、それを乗り切っていく一つの方策として、当時の山田徹雄学長が心理学部設置を決断されました。心理学部の開設年度は、国家資格の公認心理師の養成1年目ということもあり、受験生の強い関心を引き、心理学に対する社会的関心も高く、その目論見はうまくいったように思われます。入試状況をみると受験者数は結構多く、偏差値も上昇しています。現在では跡見学園女子大学の看板学部になっていると言っても過言ではありません。

本学部では、養成する人材像として、次のような3つのモデルを掲げてやってきました。

①「プロフェッショナルモデル」=公認心理師, 臨床心理士などの資格を取得し、保健医療、教育、福祉、産業・労働、司法・犯罪の分野における心理専門職を目指す。

②「ワークモデル」=心理学, 臨床心理学の幅広い知識とスキルを活用し、人事・労務、接客、企画、広報、マーケティング等の仕事に役立てる。

③「ライフモデル」=心理学, 臨床心理学の幅広い知識とスキルを活用し、自身の精神的健康、人間関係、子育て、家族関係、介護等において豊かに、より良く生きる。

この4年間のおおまかな傾向として、「プロフェッショナルモデル」を志向する学生が1/4、「ワークモデル」、「ライフモデル」を志向する学生が3/4となっています。入学時の学生は、本学部の目玉である「プロフェッショナルモデル」への関心はあるのですが、その履修の大変さ(80時間の「実習」を含む25科目が必修)もあり、最終的には例年、1/4くらいに落ち着くということになっています。

今後の課題は、完成年度を迎えたので、次年度は松寄くみ子新学部長のもとで、この4年間の総括して、平成6年度から予定されているカリキュラム改正に向けて、より充実した教育体制を構築していくことです。

ちなみに人文科学研究科臨床心理学専攻(学生定員12名, 専任教員10名)は、心理学部設置と同じ2018年度より、それまでの臨床心理士養成に加えて、公認心理師養成も行うことになりました。つまりダブル資格が取得できる体制になりました。ただそうすることで公認心理師養成に必要とされる450時間の「心理実践実習」を含む10科目を新たに置くことに

なり、院生も教員もとても忙しくなっています。

今後は、心理学研究科臨床心理学専攻として独立を目指すことが、大学評議会でも表明されており、さらなる発展をしていくことになります。

最後に私事ですが、私は2112年に九州大学を定年退職し、跡見学園女子大学に赴任しました。最初の6年間は文学部臨床心理学科の教授、その後の4年間は心理学部臨床心理学科の教授・心理学部長として勤務させていただきました。この10年間、気持ちよく過ごさせていただきましたことを感謝致します。次年度から東京大学教授の下山晴彦先生をお迎えし、さらに心理学部が充実発展していくことを願います。